九頭竜川流域のつながりづくり

ふくい ミクマリ 通信

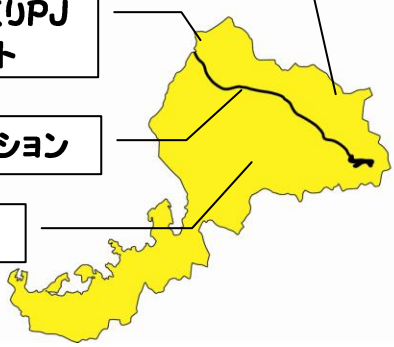
九頭竜川流域で自然との暮らしを楽しむ団体が力を合わせて一冊の通信を作りました。

小原ECOプロジェクト

NPO法人三国湊魅力づくりPJ
緑のリレープロジェクト

サクラマス・レストレーション

環境パートナー池田



vol.1

2010年2月

「ふくいミクマリ通信」とは

福井県面積の約７割を占める九頭竜水系は、霊峰白山を頂とする山々を源に発し、コシヒカリのふるさと福井平野を流れながら、サクラマスや鮎を育み、日本海へと注いでいます。この大流域を舞台とした水と緑の交通は、彼方の大陸までを環内に人・モノを活発に行き来させ、豊かさを運び、独自の文化を育んできました。

ミクマリとは水配り、田の神・山の神と深い関わりを持ち、水源や分水嶺に祀られている神の名です。いのちと暮らしの源である水は豊かさの源泉。その分配を考えることは将来にわたって環境を考えることだと考えています。

九頭竜川流域で多様な環境活動をしている団体や住民の方々とゆるやかなネットワークをつくり、時には協力しあい、時には刺激をうけあいながら、より一層の活動の充実と、その広がりに期待したいと、九頭竜川流域ネットワークを築いていきたいと考えております。

情報交換と各活動の報告、そして、流域に住む住民の方々に楽しく広報していければと、各団体が原稿を持ち寄り、第二回ミクマリ会議に合わせて、「ふくいミクマリ通信vol.1」の発行となりました。今回は、４団体でスタートを切ることができましたが、今後少しずつネットワークを広げ、御賛同いただける多くの活動団体と共にこの「ふくいミクマリ通信」を発展させていきたいと思います。テーマについても各号毎に色々と考えていきたいと思います。

上流から下流、支流から本流同じ九頭竜川水系とはいえ、文化・歴史、環境、生き物、気候、人々の暮らし等々少しずつ違うと思います。「ふくいミクマリ通信」の打ち合わせのために各団体の地域を見させていただき多くの発見がありました。そんなちょっとした、発見・関わりの中で、それぞれの地域が少しずつ、つながりをもっている事を感じました。

<u>九頭竜川流域ネットワークに興味を持たれ、ふくいミクマリ通信に参加ご希望の団体は事務局まで御連絡ください。</u>

「第二回ミクマリ会議」　2月27日（土）開催!

<u>「森林の可能性～未来につなげる森林づくり～」</u>

<u>「ミクマリからの贈り物～今の時代、これからの未来の自然とのかかわり方～」</u>

という2つのテーマにそって、多様な活動を発表しながら環境×観光×歴史・文化×教育を考えていきたいと思います。そしてみなさんが考えたり行動するきっかけになればと思います。

人工林は木材の価格の低迷で手入れされず、密度が高くやせ細った手遅れ林が広がり、里山は化石燃料に依存するエネルギー革命以降、利用されることなく放置され荒れ果てています。松林は利用しないことにより、松にむかない土壌になり弱体化が進み松くい虫により壊滅的な被害を受けています。大雨が降れば、山の保水力が少ないため、土砂が崩れ流域に押し寄せ、藪になった里山はゴミの不法投棄の山に、枯れた松は倒木の危険を伴い、松の防風林を失った海岸線では、強風が民家を吹き抜けていきます。ガスも電気も使わず、薪を拾い、炭を焼き、落ち葉を集め、自然の恵みを得ていく生活には今からは戻ることは難しい。そんな中、何十年・何百年と人が関わり続ける事によって成り立っていた自然が、今、バランスを崩し始めています。

手入れをするより多くの人工林が手遅れ林となってゆく、手入れしても材が売れない、そんな現状に対し、人工林の新しい可能性を鋸谷さんがしめしてくれました。森・里山・川・海、今の時代、これからの未来にあった自然とのかかわり方を模索し、行動に移していく事によって人々の暮らしと自然が新しいバランスを取り戻すのではないでしょうか？

活動展開中！の

白山ろく 小原ECOプロジェクトへようこそ

小原 ECO プロジェクトとは？

勝山市北谷町小原地区の歴史・文化・生活様式・自然資源を未来へ継承し、小原地区の再生を目指している団体です。小原区や森林組合、福井工業大学、および個人ボランティアなどが連携して活動しています。

現在は古民家修復、登山道補修、山村生活体験ツアーなどに取り組んでいます。

コラム ～ 小原の静かな冬 ～

小原は山の中にある集落ですが、これまでに一度も熊がおりてきて人家を襲い、人を傷つけたという話がないそうです。今でこそ住人がわずかとなって、人気がなくなったのでおりてきて、ニワトリ小屋に悪さをした形跡があったことはあっても、人が被害にあうことはないのだそうです。

それは小原の山には実のなる木が多くあるからでしょうか。昔から、実のなる木は切ってはならないという伝えがあり、小原の人々はそれを守ってきました。ですから山にはトチやクルミが実り、動物たちは冬眠に充分な備えができるのです。

悪さをしたのも最近の話。気候の変動、温暖化で山のリズムも変調をきたすときもあるのでしょう。そうでなければ、豊かな小原の自然。冬もだから、昔から営まれてきたリズムで、静かに眠りの時間が過ぎるのです。

山の暮らしの小さなつぶやき

お水の話

小原には山の上流の清流を引きこんだ独自の水道があります。昔は上流からはりめぐらされた水路を流れて、田畑や集落まで注いでいました。ですから、上流に近い住人たちは水の使い分けをして、きれいな水が下流にまでいくように気を配りました。煮炊きに使う水は水道の水を。洗濯は下の川に。集落に住むおばちゃんも若いころ、雪の中、川まで赤ちゃんのおしめを洗いに行ったそうです。水も冷たいだろうし、外は雪で寒いだろうし、洗濯ひとつとってもつらい仕事だったろうな。でも、それも水をわかちあって暮らしていく、集落のなかに息づく心遣い、共生の精神なのだなと思いました。

（雪どけのしずく、水のはじまり）

九頭竜川水系の一つ足羽川源流　池田町のご紹介

つながれば 大きな力に

池田町は、町土の約 92%が山林で人口約 3,400 人の小さな自治体。元々恵まれた自然環境とそ人のつながりも活かしながら地域資源連結循環型社会づくりを目指しています。

まちぐるみでの取り組みが全国から注目されるようになったのは平成 15 年「環境向上基本計画」を町民 100 人が 1 年かけて作成して以降。それに携わった人が中心になり、各種団体と住民・行政が助け合う形がうまく廻り始めました。また平成 19 年には区長会も含む「池田の郷水と土を守る会」（農地水環境保全事業の活動組織）が結成された事でより町全体に浸透し取り組まれるようになりました。

代表されるものでは「ゆうき・げんき正直農業」と食品資源を再資源化する「食Uターン事業」、河川清掃、侵略的外来種の駆除など、多くの住民が参加して町全体で実施しています。他にも生き物調査や自然体験・食育イベントなど団体や個人が企画するものも集めると数多くあります。手作りの環境広報紙「かえる通信」は、それらの情報を集約して町民に伝え、いろんな人や活動がつながるお手伝いをしてきました。「できるひとが　できることを　できるときに　ちょっとずつ」をモットーに小さな力も合せれば大きな力になると信じ。発行する「環境パートナー池田」は６年間毎月全戸配布し続けています。

折込み仕分け作業←

最近では、農業や地域づくりを学ぼうと滞在研修に訪れる若者が増え、町外から移住を希望する声を聞くようになった事は、高齢化も深刻な町にとっては明るい話題のひとつになっています。

森林のエネルギーに期待

地球温暖化防止にＣＯ２削減が頻繁に叫ばれる中バイオマスの利用への関心も高まっています。昨年、池田町内の企業と県内の企業と連携し、杉間伐材や木質ペレットを効率よく燃焼させるストーブを開発し話題になりました。

蓄熱機能の他会員の声を盛り込んだオリジナル薪ストーブ「料理君」

またその仲間達で県内の自然エネルギー利用を推進しようと「バイオマス　ひだまりの会」（池田町ではＰｅｃｏの会）を結成しました。関係者らはエネルギー資源としても森林を見直し地域内で循環する仕組みをつくりたいと地道な普及活動をはじめています。

冬の味覚 イノシシ

ある猟師さんに聞けば、獲物を囲炉裏の横に寝かせ、包丁で裁きながらその場で焼いて食べるのは格別だという。実際に目の当たりにすると尊い動物たちの命をいただいていることに感謝したくもなります。田畑を荒らされる農家の気持ちになるとなんとも複雑ですが…。

SAKURAMASU RESTORATION

サクラマス・レストレーション

九頭竜川はサクラマス釣りのブランド・リバー
スポーツ・フィッシングの発祥の地である

http://sakuramasu-r.org

前身の『サクラマス・アンリミテッド』は、九頭竜川に足を運ぶ、熱き想いのフライ・フィッシャーたちが中心となり結成されたグループで、17年間に渡り40万尾に及ぶサクラマスの稚魚を九頭竜川に放流し、河川清掃や地域の子ども達との環境学習などに取り組んできました。

『サクラマス・レストレーション』は、その想いを引き継ぎ、発展させたもの。

九頭竜川において、サクラマスが「自然再生産」するための保全活動をボランティアで行っています。

代　表：安田　龍司（愛知県　名古屋市）
事務局：天谷　菜海（福井県　永平寺町）

■■ 活動内容 ■■

- サクラマスの産卵場造成
- 河川工事前の卵の引越し
- 河川整備後のモニタリング
- 子ども達との河川環境学習
- 河川清掃
- フィッシング・スクール

NHK福井放送局の本道純一カメラマンが3年以上に渡り私達の活動を取材。「九頭竜川物語」に引き続き、ニュースザウルスふくいで「永平寺川」をシリーズで放送中です。

2009年10月18日
九頭竜川の支流のひとつ永平寺川で産卵場の造成を行う。東京、静岡、愛知、三重、岐阜、滋賀からもメンバーが参加！！地元では『永平寺川にサケ・サクラマスの遡上を実現する会』が結成され、より上流で産卵させるための落差工の魚道改修も、行政と協働で進行している！！

サクラマスってどんな魚？

サクラマスはヤマメの降海型。早春、川の上流で卵からかえったヤマメの稚魚は群で生活します。中でもエサ捕りが下手で大きくなれなかった「負け組み」は、その年の秋頃から海へと降りて行き、栄養が豊かな海で60cmを越える銀色に輝く美しいサクラマスに変身します。そして、春に再び生まれ故郷の川へと回帰するのです。川に残ったヤマメは、20～30cmほどにしか大きくなれません。10月頃にサクラマスは産卵しますが、ほとんどがメスのため、ヤマメのオスとペアになることも多いのです。

安田氏の出会ったサクラマス
状態を確認後、川にリリース。

造成した産卵場にやってきたヤマメのペア

永平寺川で確認された
自然繁殖の仔魚

アマゴ君は九頭竜川水系に放流しないでネ～

アマゴ君は、僕たちとよく似ているけれど、体に朱色の点々があるんだよ。僕たちは、大昔から九頭竜川に住んでいたんだけれど、アマゴ君は途中から人間の手によって放流されるようになったんだ。間違って、ペアになってしまうこともあるから、九頭竜川では放流しないで欲しいな～。ちなみにアマゴ君は海へ行くと「サツキマス」になるんだよ。体はサクラマスより、ひと回り小さく、川でも食欲旺盛なのが特徴だよ。

三国湊
緑のリレープロジェクト

NPO法人三国湊魅力づくりPJ 緑のリレープロジェクトです

私たちは、もともと町おこしから始まり、歴史・文化、観光、環境の3部門に大きく分かれ、そのうちの環境部門が「緑のリレープロジェクト（通称みどリレー）」です。観光地でもある海岸近くの松林が松くい虫により壊滅的な被害を受け、立ち枯れしていました。東尋坊・雄島も近く、景観も損ない、通学路や観光ルートの道に倒れてくる恐れもあったためボランティアの力で何とかしようとみどリレーが立ちあがりました。現在は里山活動に力を入れ、荒れ果てた里山、耕作放棄地の活用のモデルとなって行きたいと考えています。

小さな里山のコラム

放置され荒れた薄暗い森の中、のんびりと下刈り鎌で作業をしていた。そんな藪の中で紅葉した小さな、クリ・クヌギ・コナラの幼木を見つけた。見つけられるのを待っていたかのように、ここにいるよと、精一杯、色づいてアピールしていた。いつもなら、刈払機を使い下草と一緒に、多くの幼木も刈っていただろう。雪の中その幼木を見に行くと小さな新芽をつけ、少し手入れが進んだ森で、他のどの木よりも力強さを感じた。春がきたら他の木に負けないようにとすでに力を蓄えているのだろう。仲間たちや森と会話しながら、手作業を楽しむ事を教えてくれたこの幼木達を今後も見守りたい。

みどリレーのつぶやき

事務局の竹内です。愛知から三国に引っ越してきて半年、多くの人と接して、まず特に感じたのは、人との接し方がすごく丁寧と言うことだった。初めて会った私のつまらない話も、最後までじっくり耳をかたむけ、ひとつひとつ丁寧に話してくれた。今までせかせかと生活をして、人との接し方が知らないうちに雑になっていた自分を痛感した。森の豊かな養分を蓄えた九頭竜川の水は、流域の田畑に恵みをあたえ、豊かな森や海を作り上げさらに人々の心も豊かにしているのだろうか。

晩御飯のオカズを何にしようかと、釣竿を片手に海へ行くと、小一時間で家族が食べきれないほどのアジが釣れた。九頭竜川に行けば半日で30匹の鮎が釣れた。海岸からすぐの里海に潜ってみるとウニ・サザエ・カキ・様々な魚たちに出会えた。里山に入ると、タラノキ・フキノトウ・クリにアケビ……。森の中では夏でも涼しい風が吹く。冬になって雪は降るけど生活に支障が出るほどではない。山登りや渓流釣りが好きな私にとって、少しさみしいのは、三国の里山は奥山につながらない……。しかし農家にとって大敵な、鹿・サル・イノシシ・クマ等の獣害がない地域で丘陵地では農業も盛んだ。現在こんな三国も、昔のような、バランスのとれた人と森・川・海との関係は少しずつ崩れ始め、自然との新しい付き合い方を考える時代が来ている。

昔はよかったとよく耳にする。なんで残してくれなかったのかとよく思う。孫の代・その孫の代まで自然との暮らしをリレーしていくために今、我々に何ができるだろう？？なんでおじいちゃん達はこんな世の中にしちゃったのって孫に笑われないように……。

今後の活動予定表

今回、ミクマリ通信に参加した団体の日程表です。興味をもたれた方は、ぜひ遊びに来てください。年度末ということもあり、現段階では日程が決まっていない活動も多くあります。決まり次第ご案内させていただきます。次ページのお問合わせ先にお気軽に連絡ください。

小原ECOプロジェクト

◎決まり次第ご案内させていただきます。

ミクマリネットワーク上流部
九頭竜川支流滝波川流域
石川県境の1000から1600mクラスの山々の幾筋もの流を集め勝山市新保で本流に合流する。

池田の郷水と土を守る会（環境パートナー池田など）

◎　3/14　春の資源回収（池田町内環境団体主催）
◎　3/28（予定）春一番！河川クリーン作戦
（池田町内一斉）

ミクマリネットワーク上流部
九頭竜川支流足羽川流域
池田町、冠山を源とし、日野川に合流する。

サクラマス・レストレーション

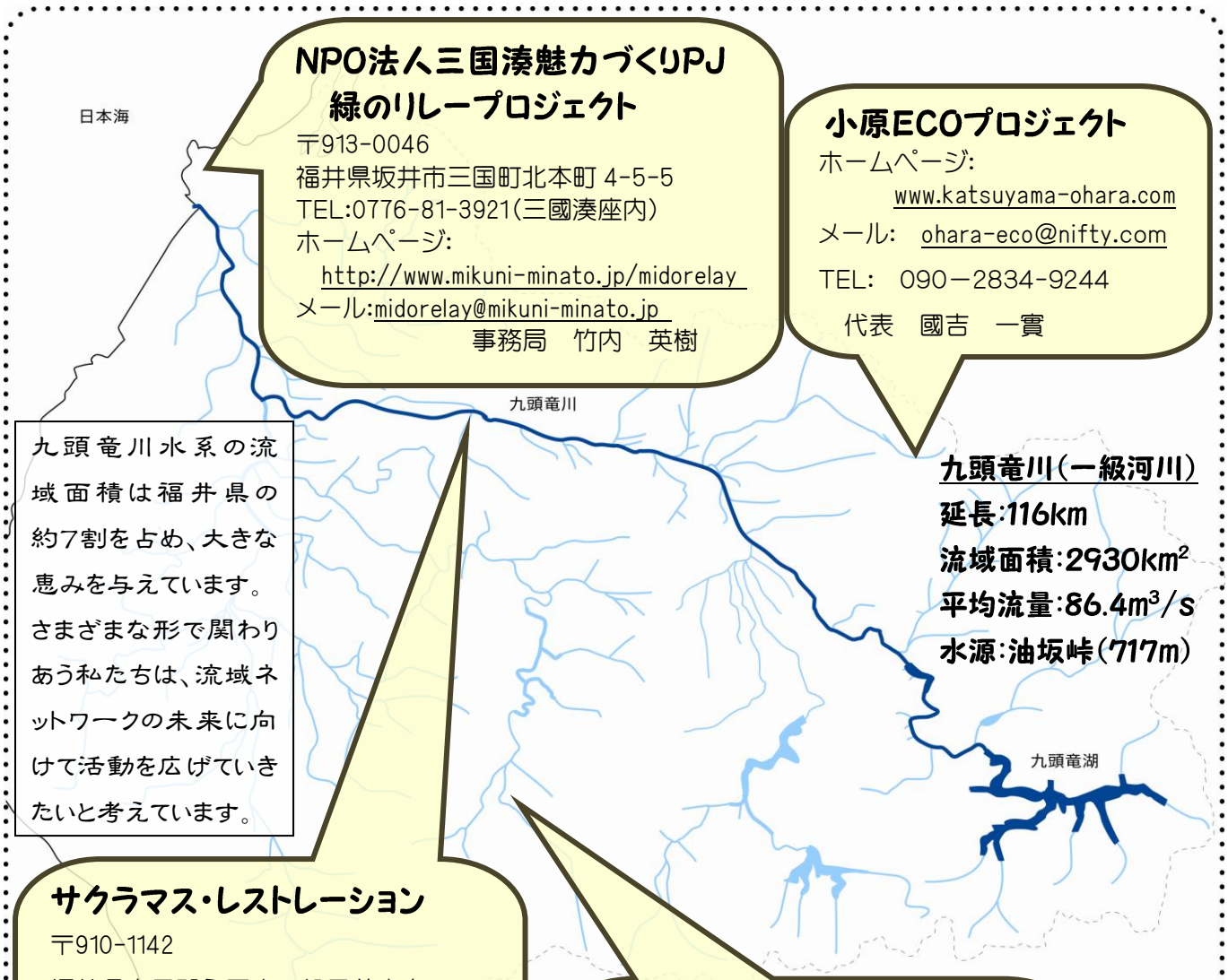
◎　3月25日（木）　救出したサケの稚魚放流
◎　3月30日（火）　救出したサクラマスの稚魚放流
◎　4月上旬　　永平寺川　魚道の落成式
◎　4月中旬　　安田龍司　フライ・フィッシング・スクール
◎　10月中旬　　永平寺川　サクラマスの産卵場造成
◎　12月上旬　　永平寺川下流域　卵の救出
＊　その他のイベント等は、ブログで随時ご案内します。

ミクマリネットワーク中流部
九頭流川本流と
支流永平寺川流域
大仏寺山・剣ヶ岳を源に、永平寺町東古市で、本流に合流する。

NPO法人三国湊魅力づくりPJ 緑のリレープロジェクト

◎3月6日（土）里山実践活動（二ノサクじいちゃんの森）
◎4月4日（日）里山実践活動（二ノサクじいちゃんの森）
その他の活動予定
きのこづくり・森のクラフト展・ドラム缶窯で炭焼き
ツリーハウスや遊具作りなども考えています。

ミクマリネットワーク下流部
九頭竜川流域・日本海
岐阜県との県境にある油坂峠を源に、九頭竜ダムを経て、福井平野にて日野川を合わせ坂井市で日本海に注ぐ。



NPO法人三国湊魅力づくりPJ 緑のリレープロジェクト

〒913-0046
福井県坂井市三国町北本町 4-5-5
TEL:0776-81-3921(三國湊座内)
ホームページ:
http://www.mikuni-minato.jp/midorelay
メール:midorelay@mikuni-minato.jp
事務局　竹内　英樹

小原ECOプロジェクト

ホームページ:
www.katsuyama-ohara.com
メール:　ohara-eco@nifty.com
TEL:　090－2834-9244
代表　國吉　一實

九頭竜川水系の流域面積は福井県の約7割を占め、大きな恵みを与えています。さまざまな形で関わりあう私たちは、流域ネットワークの未来に向けて活動を広げていきたいと考えています。

九頭竜川(一級河川)

延長:116km

流域面積:2930km²

平均流量:86.4m³/s

水源:油坂峠(717m)

サクラマス・レストレーション

〒910-1142
福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 34
ホームページ:http://sakuramasu-r.org
メール:　nami@amaya.ac.jp
事務局　天谷　菜海
携帯　090－8095－3273

環境パートナー池田

〒910-2512　今立郡池田町稲荷 35-4
TEL:0778-44-8004　環境パートナー池田
(池田町役場総務政策課内事務局)
ホームページ:　http://ikedanosato.jp/
池田の郷水と土を守る会
メール:　koppoi@angel.ocn.ne.jp
(環境パートナー池田　理事　長谷川浩)

ふくいミクマリ通信事務局
NPO 法人三国湊魅力づくり PJ
緑のリレープロジェクト
〒913－0046
福井県坂井市三国町北本町 4-5-5
Tel:0776-81-3921(三國湊座内)
メール:midorelay@mikuni-minato.jp

今回のミクマリ通信参加団体の問合わせ先です。お気軽にお問合わせください。新しい出会いや新しい発見につながるかもません。
九頭竜川流域ネットワークに興味を持たれ、ふくいミクマリ通信に参加ご希望の団体は事務局まで御連絡ください。

ふくいミクマリ通信